

江戸崎地方衛生 土木組合議会 視察研修報告

視察日

平成24年7月25日～27日

視察先

- ・北海道室蘭市 西いぶり
廃棄物処理広域連合
- ・北海道千歳市 千歳市環
境センター

視察目的

平成25年度新たな分別収集による循環型社会形成に向けて、第2期施設整備構想のごみ処理施設整備及び運営事業等の先進地を視察することで実情に即した問題等を把握した施設整備を行うための手懸りとするため。

参加者

沼崎光芳 椎名利夫

視察内容

西いぶり広域連合は室蘭市、伊達市、豊浦町、壮瞥町、洞爺湖町の西胆振5市町の

ごみ処理を行う広域連合施設であり、主体であるメルトタワー21は熱分解燃焼溶融炉で、可燃ごみは1日210トン、不燃ごみ、粗大ごみを合わせると年間6万3400トンの処理能力を持つている。廃熱ボイラーからの回収蒸気は、発電や場内の冷暖房、余熱利用施設で使われている。この施設は、公設民営方式で運営されている。そして、民間の創意工夫による事業全体の効率化と建設コスト削減ができる等の利点がある。

リサイクルプラザは、缶びん、ペットボトルの資源化、不用品再生、環境学習施設を併設し、リサイクル活動が自然と環境を守り、真の資源循環型社会の実現を目指して作られた施設である。

そして、余熱利用施設・げんき館ペトトルは、焼却施設の余熱を活用し、温水プール、ミニ体育館、スポーツ研修室、浴室等を備えた

健康増進施設である。平成23年度は、約3万8000人の利用があったが、ここは指定管理者による利用料金制となつているので、収入減となつた場合補填が難しいという面を持つている。



メルトタワー21にて

次の千歳市環境センターは、千歳市内から発生するごみ、資源物を一括処理する総合清掃センターです。計量所、焼却処理場、破碎処理場、管理棟、排水処理場、最終処分場（埋立地）、リサイクルセンターが1箇所に集約されており、ごみ、資源物を合理的に処理しています。

千歳市には、陸上自衛隊と航空自衛隊の3つの基地

があり、自衛隊関係者が人口の約3割を占めています。千歳市環境センターは、全体敷地面積65万563平方メートルと北海道の広大な土地を利用し、建築費用のほとんどを防衛庁の補助事業で行えるという特殊な環境である。

江戸崎地方衛生土木組合の焼却施設は、平成元年に使用開始し、24年を迎え耐用年数も末期を向かえております。その他の施設も老朽化に伴い、年々処理能力が低下しています。本年7月3日に、施設整備検討委員会にて議論を行った直後の視察であったため、非常に参考になった研修でした。



千歳市リサイクルセンターにて